



## 馬耳東風

現在、ドイツで事実上の亡命生活を送っているベラルーシのノーベル賞受賞作家アレクシエービッチ (Alexievich 74) さんは、政治と科学に翻弄<sup>ほんろう</sup>される人々「小さき人々」の生活取材し発表してきた。ウクライナ侵攻で残虐行為が繰り返され人間性を失っているが「人間から獣がはい出している」と表現し、作家は「人の中にできるだけ人の部分があるようにするため」に働く。今は「誰もが孤独の時代、人間性を失わないためのよりどころを探す」と語っている。穏やかに憂いを帯びた眼差しで、遠くを見つめる大きな横顔写真を添えてベルリン朝日新聞特派員が伝えている。人間性とは「人間らしさ」や人間的な性質をさすが、思いやりや気遣いの気持ち、人の意見が聞ける、愛情、感情や理性、途中で投げ出さないなどが考えられる。生まれると届出をする国家とは、領土と住民を治める排他的な統治権を持つ政治社会である。概念として「領土・国民・主権」が浮かぶが、国家の運営を担う政治家は、国益を重視しつつも思慮深い人間性豊かな人物であることが望ましい。

日本がバブル崩壊後に取り組んだ市場原理至上主義が、反省の時期に入ったようだ。金融工学の数理的手法で踊らされた新自由主義の問題点が明らかになりつつある。豊かな社会を求めてコモンズにみる自然環境の安定的持続的維持、住居と生活的文化的環境、教育・医療・農業・金融等を健全に機能させる考え方である。この

「社会的共通資本」を対抗概念として捉えることである。一般的な市場領域とは離れて社会の土台として機能する概念で、経済学者の宇沢弘文さんが唱えてきた。農林業を土台の観点から捉え、経済のかたちを人間性豊かな個人が尊重される新しい資本主義の考え方で議論が成されることを期待したい。

国連は機能不全をさらけ出した。安全保障理事会は脱退による瓦解<sup>がかい</sup>を避けるために「拒否権」という特権を編み出しているが、それを自国の利害をゴリ押しする道具にしてしまった。身勝手がまかりとおり解決の方向性が希薄になっている。国際法が機能しないのだ。強権的な専横を抑える枠組みが見いだされていない。世界中に争いの痛みが広まることを知ったはずである。人々は地政学的に多極化と力が支配することを学んだ。

トルコ・シリアの大震災は、すでにあの3.11の被害者数をはるかに超えた。息を呑みながら必死に救出する場面をみるにつけ、その人間性は侵攻の殺戮と対極に位置する。人間は生まれた時から備えている人間特有の本性がある。また、国連総会の緊急特別会合で侵攻軍の即時撤退を求める決議案が賛成多数で採択された。加盟193カ国のうち賛成が141、反対が7、棄権が32で採択された意味は大きい。世界相手のわが国の役割は、相手の目線に立った人間性豊かな存在であると理解したい。人は総合体として「生きる・働く・暮らす」の社会生物なのだから。

(柏)